



連日の厳しい練習の成果を披露する選手

第5分団、第6分団が優勝 町消防操法大会

平成28年度町消防操法大会は7月3日、町水防センター西側駐車場で開かれ、選手たちが日頃の練習の成果を披露しました。町内の消防団が分団ごとにチームを編成して出場。規律、消防ポンプ操作の正確性、動作のスピードなどを競い合いました。主な成績は下記のとおりです。

【ポンプ車操法の部】

①第5分団②第4分団③第2分団

最優秀選手 指揮者＝関和達也、佐瀬暁、阿部正史(4、5、6分団)、1番員＝遠藤豊(5分団)、2番員＝野口裕貴(2分団)、3番員＝鈴木一史(5分団)、4番員＝佐賀信宏、森田圭一、半澤義之(3、4、5分団)

【小型ポンプ操法の部】

①第6分団②第3分団③第5分団

最優秀選手 指揮者＝阿部哲平(5分団)、1番員＝新田真義、筑井晴矢(3、6分団)、2番員＝佐藤大幸、高橋猛(3、6分団)、3番員＝渡辺秀之、鈴木武秀、相良達也(1、3、4分団)



ポンプ車操法の部優勝の第5分団



小型ポンプ操法の部優勝の第6分団

湖水浴シーズンの無事故を祈る

猪苗代湖5浜合同浜開き祈願祭

猪苗代湖5浜合同浜開き祈願祭は7月9日、志田浜のレイクサイド磐光で行われ、関係者らがシーズンの無事故を祈願しました。主催者である志田浜観光事業共同組合の蛭田正雄理事長代理が「東日本大震災及び原発事故による風評被害により猪苗代湖を訪れる人が減少していたが、入込客数は回復傾向にある。関係機関が連携し、猪苗代湖の安全、安心を発信したい」とあいさつ。神事では、関係者らが玉串を捧げました。



シーズンの安全を祈って神事を執り行う関係者ら

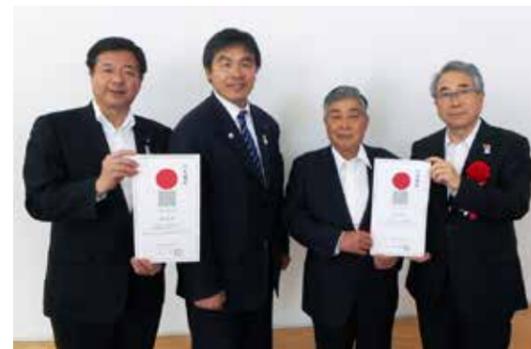
指定管理者の評価を審議

公社等外郭団体点検評価委員会

町公社等外郭団体評価委員会は7月13日、町役場で開かれ、「道の駅猪苗代」の指定管理者について、運営計画を基に審議しました。道の駅猪苗代の施設は、公募によらない指定管理施設として、平成28年11月1日から平成31年3月31日まで株式会社道の駅猪苗代を指定管理者として承認されました。長谷川興一委員長がこの結果を町長へ報告し、今後、町議会の議決を経て指定管理者に最終決定されることとなります。



道の駅猪苗代の運営方法などについて慎重に審議



馳文部科学相(左から2人目)から認定証が交付された

仏都会津・安積疎水に認定証

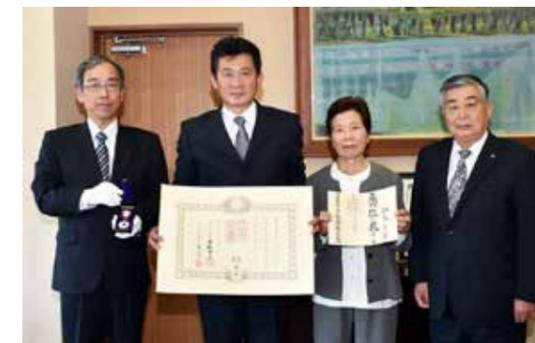
日本遺産サミットで認定証交付

文化庁から日本遺産の認定を受けた自治体が集まる「日本遺産サミット in 岐阜」は7月1日、岐阜市で開かれ、4月にダブル認定を受けた「仏都会津」と「安積疎水」の2件を含む全19件に認定証が交付されました。交付式には、本県からは前後公町長、室井照平会津若松市長、品川萬里郡山市市長が出席。馳浩文部科学相が認定自治体の代表者らに認定証を手渡しました。前後町長は「町を挙げて観光振興に活用する」と抱負を述べました。

故鈴木武喜さんに栄典伝達

町議会議員などの功績に旭日双光章

前町議会議員の故鈴木武喜さんへの叙位・叙勲伝達式は6月29日、町役場で行われました。式では、戸田光昭県会津地方振興局長が鈴木さんの長男武浩さんに旭日双光章の勲記と勲章を手渡しました。鈴木さんは昭和63年に町議会議員に当選され、議長や副議長などの要職を歴任。議会人として町政の進展に尽力されました。武浩さんは「父の遺志を受け継ぎ、町の発展のために尽くしたい」と述べました。式には、妻の貴久さんが同席しました。



伝達式に出席した武浩さん(左から2人目)と貴久さん(右隣)



ソメイヨシノの苗木を植樹する児童

緑を守り、後世へ伝える

会津耶麻地方植樹祭

第6回会津耶麻地方植樹祭は6月27日、びわ沢原森林公園で開かれ、猪苗代、磐梯、西会津、北塩原各町村の自治体関係者や児童ら約100人が参加しました。式典では「三忠碑」「旧二本松街道」周辺の環境整備に取り組む五十軒老人クラブに緑化功労者表彰が贈られました。また、緑小6年の柴田陽基さんと鈴木沙羅さんが「緑を守り、緑を育て、美しい郷土をつくり、後世へ伝えることに努めます」と緑化の言葉を述べました。

創業希望者の支援体制を強化

創業者支援ワンストップ窓口を設置

町と町商工会、会津商工信用組合は7月7日、創業希望者を支援する計画を発表しました。産業競争力強化法に基づく創業支援事業計画が国の認定を受け、3者の連携により創業支援ネットワークを構成し、町内での新事業の創出や創業者の定着と発展を支援していきます。町商工会、会津商工信用組合が開催する「創業支援塾」を所定の時間受講すると、町の証明を得て融資や税の優遇措置を受けることができます。



創業支援事業計画を発表した前後公町長ら



磐梯山噴火による犠牲者の冥福を祈る関係者ら

470余名の犠牲者を追悼

磐梯山噴火殉難者供養祭

明治21年の磐梯山噴火犠牲者を追悼する磐梯山噴火殉難者供養祭は7月15日、西勝寺で行われました。犠牲者の冥福を祈り、豊かな自然をもたらす磐梯山へ感謝するため、毎年、磐梯まつりの一環として行われています。磐梯まつり実行委員長の一ノ瀬正一町商工会長が「尊い命が奪われたことを教訓として後世に伝える」と式辞。読経、焼香の後、前後公町長、長沼一夫町議会議長が供養の辞を、遺族代表の岡部和明さんが謝辞を述べました。

ホストタウン交流計画の第1弾

リオ五輪ガーナ選手団へ応援メッセージ

東京五輪・パラリンピックでガーナ共和国のホストタウンに登録されている町は7月21日、関係者7人がガーナ大使館を訪問し、町内小中学校の児童、生徒が作成した応援メッセージを届けました。リオ五輪に出場するガーナ選手団に向けた応援メッセージで、「金メダルめざしてがんばれ」などの声援が寄せられました。メッセージの寄せ書きは、加藤碧唯さん(猪苗代小)と渡部莉未さん(猪苗代中)が児童、生徒を代表して届けました。



メッセージを届ける渡部さん(左)と加藤さん(左から3人目)ら



蔵王坊平高原の自然を満喫する参加者

蔵王の自然を満喫

第64回町民ハイキング

第64回町民ハイキングは7月2日、山形県の蔵王坊平高原で開かれ、町民96人が参加しました。雨のためウォーキングコース3.6キロのうち2.5キロを散策。あいにくの天気となりましたが、参加者は蔵王坊平の自然に触れ、健康の維持・増進を図りました。今回で9回目の参加となった原松夫さん、ミワさん夫婦は「楽しみにしているイベントの一つなので、また来年も参加したいです」と話しました。

多彩な体験で学びの「祭り」

学びいな夏祭り2016

学びいな夏祭り2016は7月17、18の両日、学びいなで開かれました。町体験交流協会に加盟する団体によるさまざまな作品展示のほか、まが玉作りやオリジナル缶バッジ作り、茶会体験などの多彩な体験メニューが実施されました。また、ミニSLが運行され、子どもたちの人気を集めました。18日には、フリースタイルスキーモーグル選手の星野純子さん(リステル)が1日警察署長を務め、防犯や交通安全を訴えました。



子どもたちに大人気のミニSLコーナー



1_ どうすれば幸せを感じられる町になるのかを力強く発表する小檜山桃美さん(東中)。最優秀賞受賞者の中で、特に素晴らしい1名に贈られる塩川正一郎賞を受賞した 2_ 猪苗代湖の水質を改善するために必要なことを発表する鈴木琉乃さん(翁島小) 3_ 将来の夢をかなえるために必要なことや努力していることを述べる渡部璃斗さん(猪苗代高校) 4_ 発表者と審査員の皆さん



未来を担う青少年の主張

青少年メッセージ2016

青少年メッセージ2016・第29回青少年の主張猪苗代町大会は7月16日、学びいなで開かれました。大会には町内の小中高校から11人が参加。家庭や学校で考えたり取り組んでいることや将来の夢などについて、自分の言葉で発表しました。未来を担う青少年のメッセージはどれも力強く、夢と希望に満ち溢れていました。



小黒川周辺の美化作業を行う蜂屋敷の皆さん

美しい河川環境を保つ

河川クリーンアップ作戦

7月3日、町内各所において河川クリーンアップ作戦が行われました。河川環境の美化を図るため、各地区の河川愛護団体が主体となって毎年7月に河川クリーンアップ作戦を実施しています。河川クリーンアップ作戦に参加した人たちは、小雨の降る中、早朝から河川敷の草刈りや空き缶などのゴミの回収に汗を流しました。町の美しい河川環境は、地域の人々の協力により保たれています。

人権擁護活動に尽力

佐賀昭男さんに感謝状贈呈

人権擁護委員を3年間努め、このたび退任された佐賀昭男さん(土町)への感謝状贈呈式は7月1日、町役場で行われ、大川原久夫副町長から感謝状が手渡されました。佐賀さんは在任期間中、人権擁護・人権確立のために貢献されました。式では、大川原副町長が「人権擁護委員として町の社会福祉増進にご尽力いただき、ありがとうございました」と感謝の言葉を述べました。



大川原副町長から感謝状を受ける佐賀さん(左)